

年頭挨拶

ITU事務総局長 新年メッセージ



国際電気通信連合（ITU）
事務総局長

ドリーン・ボグダン
マーティン

2026年の初日の出が日本と世界を照らすとき、私たちは新たな目的意識と希望に満ちています。世界が直面する数々の課題の重大さを軽視することなく、2025年に共に成し遂げたすべてへの感謝と、この先1年で達成できることへの確信を胸に、この年を始動します。

2025年は大きく前進した1年であると同時に、ITUと世界のデジタルコミュニティにとって節目の年でした。5月17日にITU創設160周年を迎えた。電信の時代からAIの時代、そして量子コンピューティングの夜明けに至るまでの歩みを振り返りました。同時に、デジタル技術が世界中の人々をつなぐだけでなく、持続可能な開発目標（SDGs）を前進させ、現代の課題解決に役立つようにするために、更に努力が必要であることを再認識しました。

日本はその歩みの初期から関わっています。1879年にITUに加盟したことは、真の国際的な技術協力を象徴するものでした。以来、約150年にわたり、革新、卓越性、多国間主義の精神をもってITUの活動を支え続けています。また、日本はITUの最大級の予算拠出国の一であり、途上国の技術・規制能力強化を可能にしています。

ジュネーブでは、過去と未来の技術をテーマにしたイベントで160周年を祝いました。ITU本部でのライトショーは、革新が進歩への道を照らすことを象徴しました。また、EXPO 2025 大阪・関西万博の国連パビリオンでも、この記念を祝し、デジタル協力がより包括的でつながりのある未来を形づくることを示しました。

2025年を通じ、日本はITUの3つの分野すべてで最も活発な加盟国の一つでした。5Gの先駆的な取組み、6Gの初期開発への貢献、災害に強いインフラ、手頃な価格でのアクセス、グリーンデジタル変革など、日本の専門家はグローバルスタンダードを形成し、技術を善用する能力を強化し続けています。

ITUとして特に誇りに思うのは、電気通信標準化部門の尾上誠蔵氏が電気電子学会（IEEE）のジャガディッシュ・チャンドラ・ボース無線通信メダルを受賞したことです。この賞は、同氏が初受賞となります。3G及び4Gモバイル通信

システムの研究開発と国際標準化を通じた開発・協力促進・導入への貢献を称えるもので、日本の革新とITUの活動を通じた世界的な影響力を体现しています。

2025年は協力の重要性が改めて示されました。ニューヨークで開催された第80回国連総会では、世界の指導者の3分の2が声明でデジタル課題に言及し、AIが世界的な最優先課題となりました。また、政府、産業界、学術界、市民社会が安全で倫理的、人間中心のAIの枠組みを共に設計するための包括的なフォーラム「AIガバナンスに関するグローバル・ダイアログ」が発足しました。

ITUは、国連事務総長が2027年ジュネーブで開催する「AI for Good Global Summit」に合わせて初のグローバル・ダイアログを主催することを支援します。

昨夏、ジュネーブで同時開催された「AI for Good」と「WSIS+20 High Level Event」には169か国から11,000人以上が参加し、両イベント史上最大かつ最も多様な集まりとなりました。ブレインマシンインターフェース、量子技術、医療分野のAI、気候変動対策のデジタルソリューションなど、刺激的な進展が見られました。日本がAIの議論に参加したことは、人々が集まれば、対話が包括的な協力、具体的な行動、そして希望につながることを改めて示すものです。

日本企業、大学、専門家は、深い技術的洞察と倫理的リーダーシップを世界のAIコミュニティで発揮し続けています。AIとサイバーセキュリティ能力構築プログラムへの支援及びニューヨークで開催されたDigital@UNGA Anchor Eventで800億米ドルに達したPartner2Connect（P2C）デジタル連合への誓約は、デジタルディバイドの解消とオンラインの安全確保に対する日本のコミットメントを示しています。

今後、ITUと日本は、WSISフレームワーク（20年レビューを含む）やグローバルデジタルコンパクトの指針の実施、持続可能な開発と人権に沿ったデジタル協力、グリーンデジタルアクションの推進、途上国や小島嶼国・内陸国での接続性とデジタルスキルの拡充など、デジタルの10年を形づくる優先課題に緊密に取り組んでいます。

産業界、大学、研究機関、協会など50以上のメンバーを通じた日本のリーダーシップは、これらの取組みに不可欠です。皆様の技術的卓越性、寛大さ、そして国際協力への搖るぎない信念は、現実の変化をもたらしています。

世界は、紛争や経済的不確実性、加速する気候危機など深刻な課題に直面しています。しかし、つながり、革新、そして集団的行動の機会もあります。共に築いてきた歴史と、ITUと日本の搖るぎないパートナーシップから力を引き出し、明日のデジタル変革を導きましょう。

ITU一同、日本ITU協会の皆様に心から感謝申し上げます。

2026年が、すべての人にとって新たな協力、革新、そして平和の年となりますように。

Akemashite omedetō gozaimasu.